WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可
明治二十年一月二十二日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府内無郵送税

第四十八號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 48. January 22nd, 1887.

第四拾八號

EDITORIAL: Woman and Music.

LEADING ARTICLES: Prof. R. Yatabe's Lecture on "The Female Education"; Miss Colbey's a Temperance Lecture.

MISCELLANIES: National Convention of 'the Women's Christian Temperance Union'.

BIOGRAPHIES: Madam de Staël—II; Mrs. Eureka: no. III; Ideals of womanhood: no. I—Coldelia.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

SPECIAL ADVERTISEMENT: Tōkyō Women's Temperance Union.

ADVERTISMENTS.

●社說　女子と音樂

●論說　矢田部良吉君女子教育論講演筆記（二）コルベー孃禁酒會演說筆記

●叢話　米國婦人禁酒會年會の景況

●佳傳　マダムデスタルの傳（二）○ゆりか物語（三）○理想佳人傳第一章シェクスピア理想コルデリアの傳

●寄書　習慣を破るべし（佐々木とよ子）○妹と脊鏡を讀む（石橋忍月）○婦人をして一家の外交官たらしむべし（古橋いたる）

●新報　二十件

●特別廣告

●廣告

●珊瑚の玉　（十七）

○世間もとより女丈夫多しかのデボラーを見よ又ジョエルを見よ或ハヂウヂスの如きアビゲールの如きカウンテスマークの如き又カウンテスモントフホルトの如き又ヂエーンハッチエットと云ひアルトルードと云ひロムバーヂと云ひイサベルラと云ひ女王ヒリッパと云ひマダムローランドと云ひジョアンヂフアークと云ふ此外また指を屈してかぞふるに堪へざる也

○マッセウヘンリー曰く傳へ云ふ女は男の脇腹の骨を以て造られたりと思に男を支配すべきものならねバ頭より造られもせず其同等にわらん爲に脇腹よりは造られたるか其保護を受けさせんとて男の腕の下より造られたるか又は其愛を受けさせんとて男の心臓に近きあたりよりは造られたるなるべし

○シセクスピア曰く凡そ尊むべき心を有するの男子は無法に女子を取扱ふものを輕んずるならん

○ルーテル曰く全世界中信實を以て滿ちたる女の心よりも更に優ゐるものはわらざるべし

○バイロン曰く娘孃は其有する薔薇の如く温和あり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾八號

明治二十年一月廿二日

●社說

○女子と音樂

春のうぐひす秋の蟬だに自然に吟聲發す況んや人は心知あつくして情思深しうたひものなくては叶はず後世明君いで玉ひ道行れて自然に雅聲のおこらむまでは せめては平家うたひ舞などなぐさみにうたひても苦しからじ情を伸るの一なり今まで婦人に病氣多きも小歌は風くだりてうたひ難し箏琵琶を知らざれば唱歌も知らずうたひは婦人に似合ず情を伸ぶべきたよりなきゆへなるべしとは昔し蕃山翁が述置たる知言にして今ま音樂を評するも亦たかく申さゞる可らず秋の夕景色自らさみしくて一聲の鹿鳴に友なきの怨切なる折又は春の櫻花ちり行て無常を示し夏の月大空に澄み渡りて心地自らに高うなる際み無限の感情は言葉にも述ぶべからず況して筆もて得盡すべきにあらずたゞ二三彈の奏樂はすでによく情緒を發露して心氣茲にすが〳〵しくならんのみ左れば心の鬱し易く口の述べがたき婦人女流には必ずや世に音樂なるものなくては叶はず又音樂のうち自ら之を奏するに堪へて秋天春夜限なきの感を得て容易う弄ぶべきものなくては叶はず女子もし音樂なかりせば狹の胸の中は述べがたきの思に張り裂けやすべし故に音樂の世に出でたるはダルヰン若し男女相愛の方便となれるゆへと申しスペンセル若し極感の低聲之が譜となり初めたりと申すも其は何れにても不可なし今日となりてはかの友を慕ふの心、夫を想ふの愛、世を歎くの感、高尚の德をほめたゝゆるの信みな之を音樂に訴へでは現し盡す可らず特に鬱し易き女流の人々は此樣のものなからん爲に眞に病多からんと云ふは尤も味わるの言葉なるべし

音樂は斯くもよく思を現し盡すの德あり左れば人を感動せしむるの力もまた世に之に過たるはあらず千言万語は人心を動す可らざるとも洋々たる樂の音は直に之を轉ばす可し頑なにして硬き古風の翁は當今の言語もて說き得ざるとも一席の音樂は既によく其心を春の如くすべし奏で出る高き低きの音は心中無限の思を揚げ抑へて憮然として歎じ慨然として慄き凛乎として激し聳然として恐るゝ皆な隱微にひそみ居たる感情心の奧より湧き出てゝ我全躰の上に現れ來るが故なり博士シトメンが筆書數百枚は樂一譜のよく感を集るに及ばずと申すリヒテルが樂は我が見ざるものを見せ見る可らざるものを見

すと申す皆な此義なりされバ音樂は天の使の言葉なり之を聽くもの動かざるなし其人心を感化するの強き蓋し他に類なきものあり

むかし或國に富豪の家ありけり富めるがまゝに驕りくらして榮華きハまりなし一人の娘は身に錦繡を着け手に金銀を挿み一身にはパリー、ロンドン、の時好を寫して舞踏宴會の席をかゞやかさずと云ふとなし父母兄弟も亦之をほこりて見む人の多かれとのみ祈りたり然るに或時宗教の感覺にはかに强らなりて世にリバイバルと云へる信仰の復興多く行れ此富家の住へるあたりも數多の改悔者をぞ出しける此際かの娘も亦世の樂の果敢なきを觀じて宗敎の德の甚だ高きを悟り飜然心を改めて敎の道に歸したり左れば昨日まで我身の飾と思ひたるものも今は身上の穢汚と覺へ錦繡を脫して黑衣を服し金銀をすてゝ質素の嗜なみにやつし多くは宴席夜會の招待を辭して獨り一室に高尙の樂を味ひたり父母兄弟は其風のにはかに變りたるを疑ひて之を責めたるが實を聞て大に怒り我家風は驕奢を以て德となす斯る忌はしき遁世人は我家の人にあらず昨日まで世にもてはやされたるが今は我等の面に泥を塗りたり若し改めずバ茲には置く可らずなど云ふ娘は昔の我身に比べて人々のつれなきを歎じ世の愛想の變り易きを觀じて神の慈悲の大きやかなるを思ひ日くるゝ比ろ窓下に一編の歌を作りて心の程を詠み出でたりこれ切てものなぐさめなるべし然るに其後多くも立たず父は我家に大なる宴會を開くと觸れて其夜は娘にかねて仕込置たるかの琴を彈じアッパレ親兄弟の譽を顯はせ曲はかの何々ぞよからんなど今は聞くにも堪へぬ淫猥の段を奏でよと命ず而して若し其命を聽かずバ今にも家を出よと云れんずる覺悟と見へたり娘は唯々として命に隨ひたるが心の歎は只双の眼のみぞ知りたり宴も早や酣と爲ぬ左らバ娘の手練ぞよ姬御寮の手並よとざゝめき合ふ娘は靜やかにピアノに對ひ心の思を葱の手に舞れせて譜なきの譜をそがまゝに彈じ出すれ

一。我十字架をになひて　耶蘇にしたがひ　よのうきことにれ
こゝろをとめじ　このよの望みも　みなつきはてし
かみの子となるは　たのしくありぬ

二。よよにくまるゝは　われのみならず　耶蘇はわれよりも
いたくせめられ　われらに先だち　かへりてをくる
ろのたまものにぞ　われはなぐさむ

三。われよわきときに　耶蘇きみつよし　わだはかこむとも

われはをそれじ　みじかき此世の　おやみをしのび
あがくぞたのしむ　くにゝいらまし

1. Jesus I my cross have taken
All to leave and followthee
Knaked, poor, despised, forsaken,
Thou from hence my all shalt be
Perish every fond ambition,
All I've sought, or hoped, or known;
Yet how rich is my condition;
God and heaven are still my own.

2. Let the world despise and leave me,
They have left my Saviour too;
Human hearts and looks deceive me,
Thou art not like them untrue:
And whilst Thou shalt smile upon me,
God of wisdom, love, and might,
Foes may hate, and friends may scorn me;
Show thy face, and all is bright.

3. Man may trouble and distress me,
'T will but drive me to thy breast;
Life with trials hard hand may press me
Heaven will bring me sweeter rest,
Oh, 'tis not in grief to harm me,
While thy love is left to me;
Oh, 'twere not in joy to charm me,
Were that joy unmixed with Thee.

とかねて咏出でたる感歎の歌を即席に奏したり父母兄弟來客幾人皆な感に迫りて悉く悟を得直ちに教の道に入りける此は是れ多くの中の一例にして古今にかゝる例は甚だ數多あるとなり畢竟その思を尤も強く現し得て而も人の感を尤も深く動し得るものゝ音樂なれバなるべし故に吾人は之を以て女子の鬱し易き思を伸バしてその所謂る病多からんと申す積弊を矯め之に洋々たる樂を得させんことを切望すると共に尚且つ之によりて女子が人に對し國に對するの意見を發露あらんとを望むものなり蓋し一介の纎身を講壇の上に立てゝ堂々其說を述べたまはんよりは寧ろ温かにピアノ、オルガン、に對してそのなよやかなる双の手に無限の感慨を働かせ以て人の心を動し玉はんと是れ反て女流ょ相應したる手段なるべし女子の音樂に於ける相係はる所はなはだ遠大なるもの也

叢話

○米國婦人禁酒會年會の景況

前號に記るし置たる如く米國婦人禁酒會の第十三回年會は預定の通り米國ミンチソダのミンニアポリスに於て去十月の廿二日より廿六日に至る五日間に開かれたり此會はもと米國の貴婦人中社會の罪惡を消滅して世上の道德を高くせんと欲せらるゝ人々達の集り玉へるものなれば彼國の高等なる婦人達が世に爲し玉ふ事業の何如を知らんには即ち此會の景況を知るを要す此會の景況を知らんには其年會の模樣を見るを以て尤も明白なるとゝすれば世人が之に注意するの深きは固より

其謂はれあるとなり因て此會の機關として發兌するユニチンシグナル新聞十一月十一日の分此頃到着したるに依りて右年會の模樣を窺ふに流石は全世界の花を集めたる貴婦人の集會とて其の壯大雄偉なると殆んど羨むに堪へたり今左に其大概を譯する如きはたゞ〱其一斑を敍するものと見るべし

さても地方委員はかねてより會塲の仕度を調へミンニアポリスに名高き劇塲カシノ、チペラ、ハウスと申すを借受たり廣き舞臺の正面には時ならぬ艶花數多を飾りて旗幾流を垂らしたる中にも右手に掲げたる大旗には「合衆國の酒税は九千六百万弗」と書付け左手にかざしたる大旗には「合衆國はコンゴーに聖書と酒とを送れり」と書付たり又舞臺に對する看棚には「敵洪水の如く流れ來らん時神の靈は此人に反らひて旗を擧ぐべし」と認め、その兩方には長き一列に文字を配りて「家に清潔政府に神」と認め之に對しては「吾等の夫、子、兄弟を破壞者より助けよ」と認めたり又土間の中央には國旗の大きやかなるを吊るして之に政校即ち會室とは書付ぬ彼此の丸柱にはくさ〲の飾を縛り舞臺の左右には所せきまで贈り品を集めたるなど用意よく整ひて正面には椅子幾十脚をば列たり先づ其の眞中に腰打かけたるは米國婦人禁酒會の會頭ウィルラルド孃、その美なる童顏に對して左右の席を占めたるは万國婦人禁酒會の會頭マルガレット、ブライト、ルーカス夫人及びウィルラルド孃の母ウィルラルド夫人なり其周邊にはウードブリッヂ夫人ビウユル夫人ステベンス夫人及びアンナゴルドンなど申す書記又は會計エスセルプーフ又はヨウマンス夫人チエニショルム夫人カナダのフホステル夫人など其外數多の貴婦人順を追ふて席に就き玉へば足下に散らしたる花數多は馥郁たる香氣を發して滿塲之が爲に春の如くなりき

又一方にはユニチンシグナル新聞の速記者及セントポール日々新聞ミンニアポリス日々新聞等の探報員を初としてフヒラデルフヒアのクリスチアンステートマン、ワシントンの諸新聞、ワイノナのレパブリカン、デートンのデーリーヘラルド、シンシンナチのエステルンクリスチアンアドボケート又はワシントンイリノイ共同女子出版會社及び同社出版のアッツシエーテッドプレッスなど申す所々の新聞より派遣したる探報員は片唾を呑んで机前に扣へアンドレウ夫人アムス孃等は集會中の好事件を廣く國内に報告せんとて是亦傍に座を占たり

此劇場は三千五百人を容るゝと申すに開會の當日は最早や錐を立つべき餘席もあらず偖て時刻となりぬれば牢獄巡査貧窮

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

院等に關する部會の會長パーチー夫人會を主りて聖書を朗讀しハンナウイタウルスミス祈禱を捧げて代員の姓名を讀上げ委員を撰定したり此に於てスミス夫人は會頭ウイルラルド孃の母ウイルラルド夫人今年八十二才となり玉へるを會衆に紹介す會衆總て起立して之に禮するとき老夫人は短かやかに最と感深き言葉を述べ玉ふ會衆歡呼して之を祝したるのちウイルラルド孃は起ちて淸朗の言語に少かの答辭を述べたり

此時場内少しく冷へ渡りければウイルラルド孃はブライトルーカス夫人の之に感じ玉ひやせんと思遣られて風入の御心地如何にや座れすと問ひ玉ふにルーカス夫人の答に斯る盛況は何人の血液をも温かに爲し候よとは申されぬ

次にミンニアポリスの歌ひ女"we shall know Each other Bether"の一曲を歌ひ了りてさて例の如く會頭ウイルラルド孃の年會演說ぞ初りける

敬愛する白標軍の人々諸君、吾等れかの革命戰爭に居合せたる老母より今は下三代の後に居れり左れは諸君の母もし其母と手を接して其母も亦その御母と手を接し玉れんにはかの革命戰爭の母たるアビゲールアダムス又は革命の貴婦人たるマルタワシントン若くは此戰爭中に尤も著名ある女丈夫モルリーピッチエル等と吾等との中を隔つる彼此の間は一の橋もて結び付けやすべし抑も此人々は吾等と均しく十字架の前には平伏し國旗の下には集りたり此人々は又吾等と均しく彈丸雨注の間に革命を布告したる男子の同盟となりたり又々吾等と均しくかの男子が生命運及び神聖ある名譽を捧げて盡力したる事件に對し其凱陣を祈りて何物をも犧牲としたり今日八十二歲の平安を保ちて玆に在れす妾が愛母はその祖父が公宴に於て數度ひ嘲りたまひたる恥辱を語り玉へり蓋は斯る宴席のうちに革命者として只一人居合れせたる折人々はキング(王)ヂョージ万歲其幸福の廣らんを禱ると祝せり祖父は此際勇を皷してワシントン万歲其幸福の廣らんを祈ると祝したるが稍もすれば其義俠は死を以て償れれんずる危難ありたり然るに今まや此預言は眞とありて今日ワシントンの万歲を祝するもの万國に多し其の聲更に世界を一週せんとす但だ今日の革命者はその英人たると米人たるとを問れず神の定め玉ひたる飮料即ちかの冷水を盃に盛りて以て之を祝賀する者なり(未完)

Whatever may be the customs and laws of a country, the women of it decide the morals. Free or subjugated, they reign, because they hold possession of our passions. *Martin.*

●論說

○矢田部良吉君の演說(女子の敎育)筆記　(二)

其のマキモノと云ふのは即ち之であります〈さて讀上けるは〉

一夫を天といたし候事をたれもわきまへ居候ことには候へども天をうらみ天をいとひ候へば逃れもうすべき樣これなく候これらの儀に心をつけよく／＼相事へ可申候凡そ門内の治めは恩義を掩ひ候故心やすだても出來いたし候間敬愼せん一心がけ可申事

一男は剛を以て德とし女は柔を以て用といたし候事に候あひだ身を修め候には敬にしくはこれなくつよきを避け候には順にしくは無之候事故敬順の道は婦人の大禮に候偖誰しも最初よめ入候せつは何事にもふかく心をつみ候處追々居馴るゝにしたがひ前にも申候心やすだて等でき候ものに候間精々心を用ひ差出がましき儀不足がましき事どもこれあるまじく候總じて足ことを知り堪忍專一に心がけ我事はすべて扣目／＼にいたし申べく凡そ事に直なると曲なるとはあるなれども是は直是にては曲れるなど申時は自然たか聲にも相成り終には夫婦なかいさかひなど出來候は畢竟平日前條の次第不相學故の事に候曲てしたがふは女の道に候心得べき事

一夫留守のせつ客來有之ば右のだん申斷り可申候もしよんどころなき儀にて座敷迄通り候へば誰れにても側らに居差向に不相成樣精々こゝろづけ可申候凡そ物腐れ候へば蛆生じ可申人も恠れず候へば謗も入不申候能く／＼心得可申事

一自負の躰無之不行屆不ちやう法など申すとも我身をかへりみ候階梯と心得聊不平に存じ申まじき事

一下女どもの申聞候儀とりもちひ申まじき事人々のうわさ等申儀心付け申間敷事

一衣服其外すべて手かけ候ものは念入申べき事

右は此度緣付候につき最初よりの心得かた大切のものに候あひだ認め差遣ものなり

一家政の儀に付他家幷びに里方のふり合を例にひきかれこれ申まじくかつずいぶん申出候通りにあひならず候とていかゞの顔付又はプリ／＼いたし候事ども甚だしく夫たるものゝ氣色にさわるものに候これらの儀はすべての儀に心付勘考いたし可申候かつ夫に一旦はさからひ候ともつひにはいたしかた無之候あひだ最初より從居方女の道にもかなひ神妙とこゝろへ可申事

箇樣な書付を私の母に遣はされ母は之を守ッて私の父に事へたものと見えます。

諸君のきかれる通り江川太郎左衛門氏の考へも箇樣にヤハり貝原益軒の主義と同じもので御坐ります。維新以來敎育の主義開進して今日に至りてハ大中小の學校並に幼稚園などのことに付てハ日本開闢以來今日ほど敎育の盛んなる時ハ御坐りませぬ。

然るに女子の敎育に注意するものハ甚だ少くして其の論ずる所も亦精確で無く概ね漠然であッて男子を敎育すると同じく男女の體質が一樣で無いにも係らず男女の職分にさしたる區別もせずに女學校の寄宿舍も男子のと同じ樣にして恩愛優美などといふ樣な心を發達せしむることと無きが如く甚だ歎ずべきことが隨分近ごろまでありました。併し今日に至りてハ漸く女子の敎育に付て世人が精確なる考へをもつ樣になりました。近ごろ私のトモダチの服部一三君や手島精一君が女子職業學校といふものをたて女子が他人に依賴せずして自營の道を立ることの出來る樣にしましたが併しこの職業學校の如きハ某種の女子に限ることであッて一般の女子に適するものでハありませぬ。なぜなれば女子ハ一般に言へバ婚姻すべきものであるから私ハ敎育を受けたる女子ハ敎育を受けたる男子に嫁すべきものとして述べやうと思ふ。女子ハ若年のときに活潑なるにまかせまして男子同樣に學ぶと發育に害が御坐ります。其れハ歐羅巴亞米利加の經驗によッて知れることで醫者や代言人などになるものにハ格別の害ハ見ないが其の女子が母となるに及んで擧る所の子が發育することが出來ないといふことハ明らかなことであります。故に若し男子同樣の高等敎育を受けて嫁に行くのがイヤだといふ人ハ醫者でも代言人にでも御勝手におなりなさいといふより仕方が無い。併し成るべくハ健康なる子供の出來る樣にしなければなりませぬ。

私の考へます所を以て見ますると女子が有名なる學者となり有名なる政治家となるを好むものもあるが學者となり政治家となッて人の母となるをすてるよりハ有名なる學者の母となり有名なる政治家の母となるがよいではないか（喝采）。ドクトル、ウイザルス、ムールが昨年學術奬勵會に於て述べたる言葉の中に「ベーコンの母ハノーバムヲルガナムを書くとは出來ない然しベーコンを生んだ人はベーコンの母の外にハ無い又ゲーテの母ハフハウストは書とハ出來ない然しゲーテを

生だ人はゲーテの母の外には無いと云ことがありました世界の有名なる人の傳記を讀で見ると英明なる父の子に英明なる人があるとはきまらぬが英明なる母は多く英明なる子を生むといふことであります。故に婦人の教育は人の母たるに適當なる様にしなければならない。生理學上社會上よりして男子の教育と違はなければならない。(未完)

○コールペー孃婦人禁酒會(大坂にて)の演説筆記

私は新聞又は他の確なる文書を持ちませぬ故殘念ながら只記憶の中より御話し申ねばなりませぬ今より十三四年前に或人は神に逆ひ又は祈禱を嘲る様の演説をなして巡回ました此事は婦人禁酒會には關係なき事なれど只今述んと致しまする所に合せて御考へならん爲爰に申しました

其頃又或人は禁酒演説を致しました此人或日演説を終りまして後己れの止宿所に歸り宿の主婦に向ひまして何故婦人輩は社會改良の爲に盡力ませぬかと問ひかけました此言に依て主婦は深く働く可き事項の多くあることを感じました此主婦の力にて翌朝市中の婦人達を集めて相談會を開きまして如何にして酒の害に敵すべきやを議しました彼等神に祈り聖書を讀みし後一の酒店に行き切に酒類販賣の商業を廢止ることを主人に願ひ且言ひますに貴家酒を親に鬻ますれば其の兒は孤兒より倚可憐な狀に陷り夫に酒を販るときは其婦は寡婦よりも倚可憐な樣となると申しました特に此中の或る婦人は己が愛子の上を思ひ酒の害より救はるゝ爲に熱心に願ひました酒翁默して此等の言を聞きましたけれども彼れ近隣の人々の靈魂よりも黃金を愛せし故に廢業すること能はざりき婦人等猶も跪きて彼の自ら非を悟悔て神の恩釋を得ますることを祈禱ましたけれども主人は更に聞入れませずはや午餐の時刻ともなりました故皆ゝ空しく立去りました

婦人輩午後復會して聖書を讀み神に祈り再ひ同じ店に行きましたが戶は閉ぢて鎖をおろしてあることを見受ましたけれども少しも驚きませず路上に跪きて祈り且唱ひました累日此くの如に爲せし故酒翁は酒を販賣こと能ずして盡く之を棄ました

其後主人は重き病に罹りましたが死滅を痛く懼れまして曩きに店に來りて祈りたる或婦人の許に使を遣りまして貴婦の祈禱を夜晝忘れ兼ね心を惱まして居ります懇請小可の救はるゝ爲神に祈り給はれと申し贈りました。又他の酒肆は皆容易に閉ざしめましたが此市街に程近き或都會の酒商人儕此事聞き傳へまして新に店を開ん爲多くの酒と人を輸送ましたが婦人

等は停車場に待受けて盡く其酒を捨てさせましたに酒は河のやうに地上に流れました斯くて此働の成就せしを聞傳へ近邊の市街なる婦人達も各々己が市街に集會して此例に倣ひ同じ樣に致しました

此事に對し或人は嘲弄ました酒商人は呪ひました又諸新聞は女の戰と評し爲に紙面を塡めましたされども此働漸次勢力を增し一街より他街に傳播まして始めは此所爲に同意せざりし婦人も強く此事に從事ました、エ、チ、ヘール、の令閨も此中に働かれましたが皆樣口づから同婦人より御聞なされざるを最と惜く思ひます

爰に又一人の酒商翁がありましたが飽くまで酒賣ることを止めまじと決心し婦人等來れば戶を鎖し窓より熱湯を其頭に注んと誓ひました皆樣如何御思召なされますか婦人達は之か爲中止ましたでありましようか否々中止ませなんだ斯くて其家に至りて見ますれば聞きしに違はず戶を鎖せるを見受けましたされども窓の下に例の通り跪きまして祈りましたどうで御座いますか此の大胆の主人は熱湯にて女を爛焦させましたか否一切て大ゐに恐怖且つ顫ひ出しまして雨戶の隙より女を覗ひて其祈を聞きまして倏ち以前の思想を變へ營業を八百屋に改ました(未完)

因に云ふ、ガールピン孃が大坂にて催されたる禁酒の演說は英語にてあり其筆記は既に寄贈を請ひたれば右コールペー孃の演說を揭げたる後に譯載すべし。又ノックス夫人が櫻井女學校にて演說ありたる女子教育論筆記の揭載は意外に延引したれば是亦遠からざる内に譯載すべし

●佳傳

○マダム、デ、スタルの傳(二)

ヒウベル孃が記錄のうちにスタルの幼時友達の仲間入りしたる始の有樣を記るしたるあり其文によりても亦スタルが早う才發じけたる模樣を推知すべし云くスタル孃は最と溫かに且つ能辨もて妾に談り玉ふ妾は深く之に感動したりされば吾等は幼子の如き躰にて遊ぶこと得ならずありしに孃の問ひ玉ふやうは妾の日課は何如のものにて外國の語は何如程學び得たるや劇場には幾度遊びたるやなど最と大人なびたることなり妾はたゞ三四度劇場に遊びたりと申すに孃は特の外に驚き玉ふ樣して此後屢ば共に參らんなど語らる且つ若し共に參らん日には歸宅の後演劇の趣向人物の批評などを書合せて互に樂み

侍らん孃はいつも斯くいたし候と申さる妾は猶更に感歎の外なかりき。又妾が曾てスタル孃なんどの集り玉ふ席に遊びたる折は孃の母チッケル夫人の席に傍ひて小き木の腰懸あり孃は常の如く之に腰打かけて泰然たれバ三四人の老紳士は最と樂しげに之と談り玉ふ或るはその手を兩の手の掌にて抱き乍ら二十五年の貴婦人と物語りあらんさまして會話し玉へるもありき此の紳士は即ちアッペレーナル氏其外のはマルモンテル、マークイスドペッセー、バロングリムなど申す方々なり孃は其口と眼とを以て快よく談話し賜ふやう其容貌の最と樂しげに持なし玉ふ風など得も言れず時としては政談に關するとも差支なく應答し玉ひけりしとあり之はスタル孃十才の比の事を記したる由を思へバ孃が幼うして既に才氣の煥發したる趣のいと明なるべし

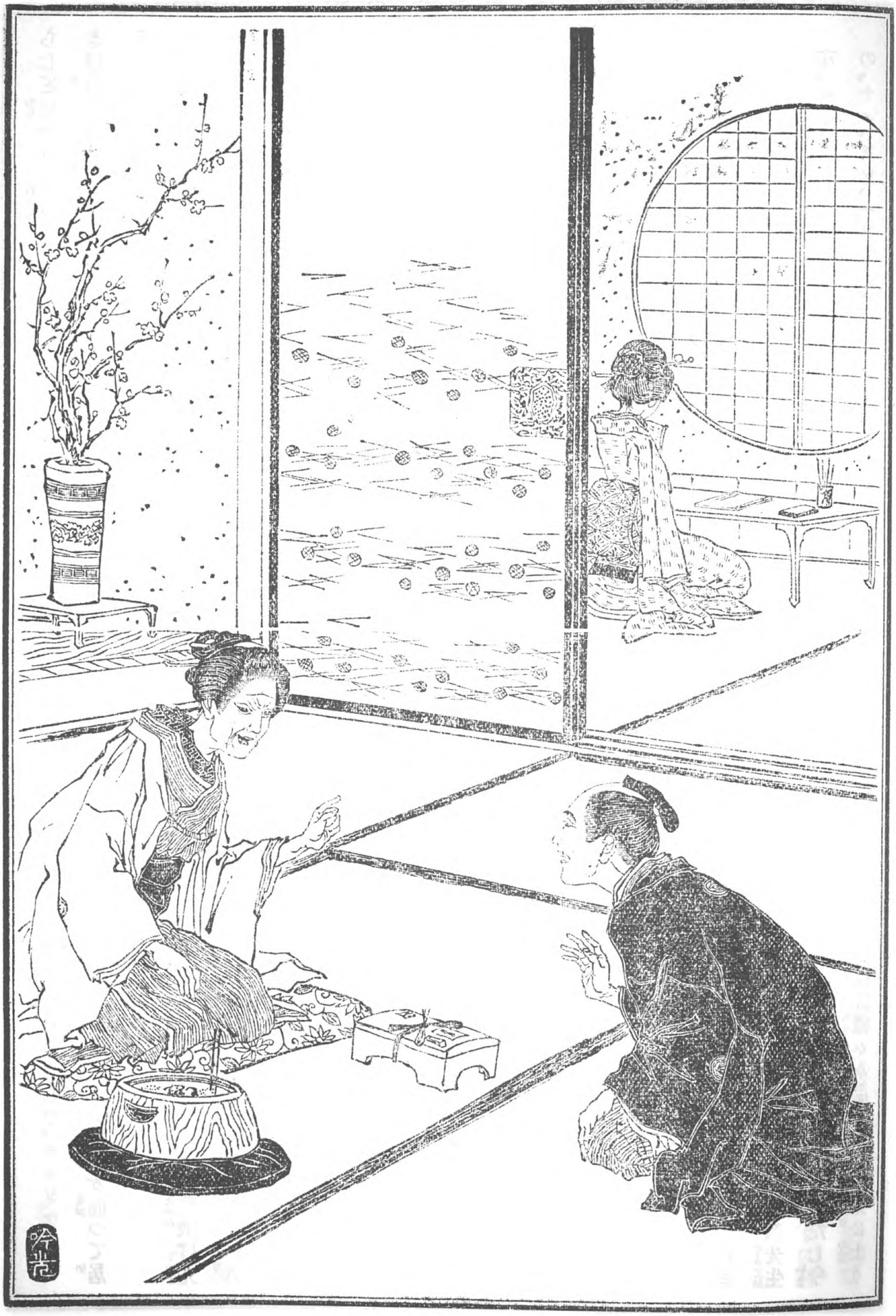
斯て孃の物語を喜びて往來し玉ふ老紳士も多き中にかの有名なるギッボンの如きは特に仲睦じう交りて朝夕絶へず行かひたり然るにスタル孃は幼氣にも早く之を慕ひて結縁の約を調へんやなど其母にも語らひ玉ひたりとぞ此のギッボンと申すはもとスタル孃の母と親しう交りて妹脊の好運或はその間に立入らんやなど思はれける程のとありける老紳士なるを其母の愛孃が今に至りて之とかく交り玉ふと申す年の上にも才の上にも共に不思議の例なるべし

スタル孃かくも年に超えて早う生立ち玉ふものから自然に身躰を損じて健康常の如くならず醫師も特の外心配して其療治はたゞ一方ありと申す云く書物、紳士、なんどを絶ちて田舍の空氣、戸外の運動、及び幼仲間の女と交り玉ふとを藥となせと此れ眞に才過ぎたる人への神藥なるべし斯りければ之よりは以前の如く書物を讀まず來り交るべき人も減じぬ此時よりして父なるチッケル氏たゞ獨り孃の友となりて多年事業社會に集め得たる老練の經驗もて孃が胸中に滿ち過して埋れたる智識の種を生ひ伸バさせぬ孃は之が爲に數多の經驗を得てまた父を慕ひ玉ふと其母よも超たり後に至り或書の中に記して云く妾は神と父と自由とを愛するものなりと

○ゆりか物語（四）

感情は猶ほ客の如し我心に憂喜などあらんには即刻に見舞ひ來て吾喜憂を思ふ哀樂之が爲にいよ〳〵切なり感情は猶ほ酒食の友の如し喜憂の酒肴なからんには乍ちにして去て復た顧みず往くもの丶彌よ遠かるにつれて疎んぜらる丶は之が爲めなり偖ても母親は夫の亡せたるを見ては此世にもはや侶はな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY


吟光

らじと思へり十年來の語らひは泡沫の夢と消て人生の賴かたきは行く雲の散じて跡なきが如し斯ては老後の樂、人を愛するより善きはなく人を愛するは我子を慈しむより樂しきはなし斯まで賢こう生れたるゆりを今日まで最と疎んじたるは後生の程も恐ろし丶先立玉ふ吾夫にも何如に見へ申さん好よし之よりは斯々してなど考へたる殊勝の感情は七々の數に歷されてやう／＼に薄うなりぬ況てや年も早や今日を終はりて相應のいそがしさを身に大晦日となれば除夜の鐘聲は反つて陽ときこえぬ春立かへりて池の氷は酒醉の溫氣に解け屠蘇の馳走にわしりまわる禮ありきは去年のくやみを略す左れば年頭に鬱してあらんは人目わし丶とさとりぬ斯て秋の半ばの悲みは冬の來るにつれて日々に冷どうなり一陽の來復は玆に生得の本質をぞ返呈しぬ

ゆりや正月早々そんな鬱陶しひ顏付をしてはなりません、御客さまもありませう、早う身仕舞でもを仕、そして机の上の書物は御片付、三ケ日は書見はなりません、書初もお止なさい、コレ／＼佛檀の世話などはマー年頭からお搆なさるな、ホンニ私もまだ着替ません、コレそこの上の引出に、あの、ナニ、ソレ、一ツち上ですよ、イエ、ハイー、御客さまが居らつした、出てお行き、ナニ東堂さまらしひ、チ、ツウカイ、夫ジャアお通しなさい、私は着替して、コレ羽織が曲つて居ますは、早うお出でナニチぐづ／＼

東堂と云へるは父の弟子なり父に三人の弟子ありて溫太は尤も其愛をうけぬ一人は早う門戶を張りて人に敎を爲し今一人は始終往來して母親の氣嫌をとりぬ此即ち東堂と申す少年なり物の記臆、應接のとりなし、世上の交際など皆な其長ずる所なれど性質の惡がしこければ父は之を愛せずたゞ何事にまれ信やかに押して世話すれば退けもせず往來させ玉ふを母は溫太の嚴肅にして狃れがたく氣の重くして心づき少を厭ひ東堂をのみ重んじたり然れど心の輕卒にして世情に重き特更になれ／＼しう持なして時には諂の躰などすればゆりかの心には最上の厭惡を養ひたり今日は元日とて業々しく禮服に注意し玄關より案内し來りぬ東堂よと思へば既にいやを覺へ乍ら母に追はれて出で迎へ先づ御通りあれとは申しぬ

年頭の祝詞なぐる丶が如く年內の御禮口の內に躍りぬサア早や之は年玉の御しるし、イエたゞ寸志の万分一で御座る、先生の一方ならぬ御世話に依りて身不肖の身も斯う立身いたし今は何々の御役をつとめて勤向は箇樣々々溫太すでに東に上り

しとて御家内のと決して〳〵御案じ召さるな拙者かくてあらん間は何とて御不自由をさせ申すべき、左樣ゆり樣が御氣欝がちでソレハ甚だ宜くないちと拙者方へも御両人で御遊びかたく〳〵、イヤ過日も申上ましたが兎角御両人でから御暮しは第一御さみしくあり次には御入用も嵩むと申すもの御構ひなくば拙者方へ、手狭にはあれど離座敷へ、ハイ先達て少々手入を致しまして可成御住にはなれませう

屠蘇のしるし顔にあらはれて腹中の寒氣も溶けぬべし東堂の辨説いよ〳〵流れ出で、雜言きく可らずゆりかは餘りの長座にいとひ果て、用あり氣に立たるがそと己が室に入りて机よ對ひぬ

○理想佳人傳　（第壹章）

シエクスピア理想コルデリアの傳

昔しブリテンにレアと申す王ありて三人の娘を持ち玉へり長女のゴチリルはチルパチー公に嫁し次女のレーガンはコルンチール公の夫人となりて末女コルデリアは未だ定れる縁あらずと云どフランスの王幷にバーガンヂー公は雙方ともに姫の愛を求めて宮殿には寄寓し玉ひけりレア王は此時歳八十路の上にありて政務も最早や懶くあればよし我を愛すると云れん姫達に其愛の程にしたがひ國領を分ち與へ身は煩しきを避て閑散の地に餘命を送らんと思立ち今日は三人の娘を膝下に召び近づけ其他の王侯をも招き寄せて己が思ふ程を問ひ質しぬ

レア王　こりやグロスター佛蘭西王バーガンデー公を之へ御招き申せ。ハーイ恐まり奉つる

レア王　偖て其間に余が志を述ぶべし、其地圖を之へ、皆の知る如く吾王國は三つに分れ居るが余は最早老年ともなりたるとゆへ諸の政務を少壯の人々に托し重荷を下したる後死途に近かんと確定したり吾子たるコルンチール又愛は劣らぬチルパチーよ余は今ま姫達への遺念を分配して死後の爭なきやうに取計申さんフランス王幷にバーガンデー公は末の姫の愛を競ひて久しく此殿に寄寓あるが之も亦今日何れとも決し申さん姫達余は今日より政務を棄て、國寳を悉く手離すべし御身達のうち誰れか余を尤愛し玉ふや語り玉へ余を尤も愛するものハ自然亦尤も廣き領地を受るの運あるべし最初に生れたるなればゴチリル汝先づ語り玉へ（未完）

'Tis beauty, that doth oft make woman proud;
'Tis virtue, that doth make them most admired;
'Tis modesty, that makes them seem divine. Shakespeare.

●寄書

積年の習慣を破るへし

東京婦人矯風會々員　佐々木とよ子

婦人矯風會創立役員撰擧の當日左の一言を演んとせしか生憎短かき冬の日の朝より曇る天合は今にもみぞれの降んかと迄で寒き摸樣と變はり其上海老名田村の二先生高き諭しの話もあり尚も其後投票の事務もあるなど二時ゟ四時の日暮まで少しの間もあらざれば司會者來會諸君の迷惑を推察なして止みたりしも思込たる一言を默して言ざるも己か誠を盡さざる不信切にや成なんと歸宅後筆とり演説の大意を述るあらましは

魚は水中に在て水を見ず人は氣中に在て空氣を見る能はず人間動物凡て此の如し己れの周圍を取卷く所のものは却て目にも耳にも感觸せさる事多し。人間には耳目口鼻の五感あれども時としては疼きも痒も善も惡も感覺し判斷し難きに落入る事あり

百年數億の人之を一綱に包み籠て其耳目口鼻をして一向に至極の反對の方角に向はしむるあり此間に賢人豪傑の人物ありと雖も一綱の中に包み籠められ卓見高論も凡て其論點を誤る事あり之を積年の習慣と云ふ

積年の習慣は貴賤賢愚を問はず一切世間を支配するものにして非常に驚くべき勢力を保つて屢意外の大害を惹起す事多し遠くは羅馬の末代吾邦王代の末季の如き近くは徳川氏末代の如き數百年の習慣は天性と成り知らず〱善惡邪正を取違ひ悲むべきを喜び喜ぶへきを歎くか如き弊害の習慣は眞に名狀すべからざるに至れり

明治廿年の日本婦人よ百年習慣の弊害を吾人諸共に其胸裏より放ち出し其胸腹には新鮮なる婦人天賦の正道を包み藏めよ此正道を包み藏めざれば百事百物何事も雲霧の中に歩行して東西を分ち兼ね己か行先の何れなるを問ふに等しかるべし

百年習慣の久しき吾人婦人社會をして口ありても言ふ能はず考へあるも之を述る能はず偶婦人の一言一行世人の意表に出る如きあれば父母親戚より一世社會の擯斥する所となり丸で婦人と言ものは土雛か張拔人形に比しき迄に落入らしめたり歎きても飽足ぬと言べし

婦人己れ亦此習慣の弊害あるを知らず默して一言を發せざるを婦人の德義と心得退て一事を爲ざるを婦人の美行と思ひ唯〱善惡邪正も喜怒愛樂も良人の氣儘次第にて己れは此感情と

云ふものを知らざるまでに不具の片輪ものと成りたるあり
それ婦人天より賜ふ所の義務は男子と毫も異なる所なく頗る多きものにて一家一村一國の事に至るまで男子と力を協せ致育に農工に製造に社會萬般の事にまで男子の及はざるを補翼して一國の品位を高尙に進達せしむへきなり今の時は何ぞ世界婦人中に於て日本婦人第一に多忙の時に逢ぬるぞ然るに百年の積弊習慣は深く日本婦人の五感を失亡せしめ死躰に非れば土偶木偶の如く善惡邪正を辨別せしめざるまでに落入たるぞ

苟も利害を判斷する五官(耳目口鼻感の五官)を各々所有して判斷力を保つある已上は先つ第一に己が胸中を新鮮にして百年の積弊習慣を破らざるべからず今や日本世人の輿論れ早已に婦人の地位を高尙に爲さんと欲するに至れり此は是千歲未曾有の好機會に向ひたる時と言へし婦人に取て至極幸福の時節到來なるべし

然れとも茲に尤難儀なるは婦人の習慣を改むるの事なり積年の習慣を改むる最も難し殊に婦人の積年の習慣を改むる尤も難き内の難きものなるべし佛國第一世ナポレオンの言に婦人の習慣を改むるは尤も難しと夫れナポレオンは歐洲列國の恐るゝ所の豪傑の士にして嘗て世界に能はずと言ふ事なし(不能)の二字は愚人の字書中にあるものなりと言はれし人にても尙此言あるなれば婦人の行を改むるは非常の難事なるべし

夫ナポレオンの言は他人より婦人の行爲を改めんとせし事なれども今此十九世紀の婦人は已れ等先つ卒先して自ら改良せんと欲する事なれば能はずと云ふは矢張ナポレオンの言れたる如く婦人改良の事に付ては無用に屬すべし

今此に設立せる婦人矯風會の事務順序頗る多し然れども先づ吾々の周圍を取卷く所の習慣を打破らざれば何事も聾者に話しを聞せ盲者に五色を說明せんと欲するに比しければ此習慣を打破るを第一編の要務と爲しぬ

○妹と脊鏡を讀む(二)　湯島三組町　石橋忍月

編者云ふ左の篇中言の遊里に關する分一時全く除去せんとしたれど意素と其實況を敍するに在りて讀者に慷慨惻隱の心を起さするの力ありと考へ元の儘に存したり諒焉

既に前にも述べたる如く妹と背は新奇なり卓絶なり周密なり日本小說以外別に新機軸を出す者なり在來の作者をして瞠睹として尻餠を突かしむ忍輩も亦た其實價を表す可き賞辭なきに苦むなり然れども世間は妙な者にて人の穴を揚げ疵を求む

るに汲々として己れ實際其力無きも人の汚をほじくるに巧なる悪戯漢ありて左程になきことを迄も大層悪しき様に言ひ做すものなり豈に注意せざる可けんや忍は此悪戯漢たるを好まずと雖も書中二三の不感服の點ありて朧氏千慮の一失にては非ずやと思ふかど少からず故にしのぶは未だ玉子の身をも顧みず粲然羽成の先生に向ひ漫に一言を呈す其生意氣と譏られ差出口と叱らるゝは素より期する所なり

おぼろ氏は誠に奇妙なる人物を作り出さるゝ事が御上手なり篇中のお雪の如き若里の如き奇妙の下に之を附けたる如き人物なり（書生氣質中にも此の如き人物を見受けたり）一躰奇妙の人物は千人中一二しか顯れざるものなり千人中一二しか顯れざる人物は著書をして奇巧ならしむると雖も然かも他事に推及するの効なし讀者をして斯る人物は斯る結果を來すなりと其善悪ともに猛省せしむるハ小説の從効能なり之を別言すれバ小説は處世上に「シンテゼ」（應用又保合）の効能ある者なり又凡そ物の形ハ其分子の形に屬すとの原則は金石學のみならず廣く社會万般の事に適するものなり例之は「ミテラロジー」にて「コバルト」は三角なり故に其分子も亦三角なりと言ふ如く女子師範學校は女子高等の教育を授く故に同校卒業生某女は高等の教育ある事を知り得可し又明治内閣は善良の　政を施すと云ハバ其内閣を組織する所の分子なる某大臣も亦た善良の人たるを知るなり今おぼろ氏の作られたるお雪若里の兩人物は原則を離れ恰も三角の「コバルト」に五角或は六角等の分子あるが如し故に一を以て他に推及する能はす即ち「シンテゼー」の機能なし今其所以を簡畧に左に述べむ

お雪は女子師範學校を卒業したる立派の淑女なり結婚は生涯の大事たるとを知りたるに相違なし夫婦性質の合不合は畢生の苦樂禍福の境目たるとを知りたるに相違なし然らば何か故に極嫌極悪の縁談を拒まさる何を苦んで氣に染まぬ田沼と結婚するや朧氏は豫め此疑問あるを知り防禦線をチャンとお雪の言中に張りて曰く「田沼さんを斷れバとて別に是ぞといふ目的もなし生中田沼さんと破談になつたら、いつかの縁談がまた………」云々及び「それも水澤さんが美男子でなければ何にも恥るわけもないけれど水澤の男振にほれたらうと人に言はれるのが悔しいから」云々と然れども忍より之を見れバ未だ以て此の二原因ハ其防禦線にハならざるなり何となれバお雪は既に作者も許す如く高等の教育ある者なり一生を託す可き男と託す可からざる男との氣質志操を眞に選み分け得る者

あり兩親に向て其利害得失を說き能はざるハ理に於て無きことあり苟も此の如き敎育ある人にして斯程に利害の判然たるを知り乍ら自ら甘んして否な忍んで其害を採るとハ父手く奇妙の人物かな忍は信ず苟も女子師範學校を卒業したる淑女方にして斯る一生の苦となり禍となるとを排除するを知ざる人は之れ無しと是れ忍が千人中一二しか顯れざる人物と云ふ所以なり

次に若里がとに至つてハ其人物の奇變愈甚しく府下遊女四千人中恐くハ之れ有らざる可しと考ふ其所以を說かんと欲れバ遊里の有樣を一通り說かざる可からず辛に友人花心子其有樣を語る甚だ詳かなり今其傳聞中成る可くけがらわしき點を畧說して自說を固めんと欲す希くハ世上の貴女紳士忍が潔淸の誌上を穢すを許されんとを」夫れ娼は家を離れ親に分れ兄弟姉妹と分離し他鄕に流離落魄して人世最賤の業を營む者之婿を擇むの日に婿を擇む能ハずして朝顛暮移以て華年を送るものあり客の一歡一笑を買んが爲に長苦大辛を費し嫌を抑へ好を制しぃて之れが歡を奉せざる可からざる者あり苟も金を懐よして來る者ハ糞臭い練馬の兄いと理窟ぽい田印とを問ハず之れが枕席よ侍せざる可からざる者之其他一夜一娼よして數客に接し東西上下來往一夜の間躰暖まるに暇なく足息むるに機なく寒氣凛烈の時炎威赫々の候樓下の欄內に坐して街頭痴客の縱覽に供し外出せんと欲するも自由ならざる等よりして考ふれば最大苦業たるに違ひなし夫れ苦を遁れんと欲するハ人情なり娼も亦一日も早く出脫せんと欲するハ當然なり故に其極欺罔百端鼻下長連より金を釣り出さんとす況んや先方より遣ふと言ふに於てをや二ッ返辭で欽々然之を受くるハ理の最も睹易き所なり是れ水澤が若里よ向ひ身受けせんと言はヽ（況して色氣なしに於てをや）直に諾せざる可からざる一理あり當今の女郎中昔しの高雄其人の如き身を殺しても思わぬ人には請出れぬと云ふ卓見識の娼あると假定するも千百人中一人のみ多くハ皆な巧みに欺し無理に請り出脫の路を得んとす且つ總躰京阪女郎ハ意氣地なく張なく立て拔きなく善く貪り善く忍ふとか聞く此れ若里が直に諾せざる可からざるの二理ゝ元來若里には所謂間夫と云ふ窮鬼あり窮鬼あるの娼は他客の受け悪しく樓主の譴責も亦た甚だしくしみゞゝ勸めにがいやにあり如何にしても身脫けせんと計るものあり故へに水澤がたとひ若里に意ありて請出ださんとするも遊里の常態諾せざる可からず然るに水澤は眞に父の不義を雪がんが爲め

又澤江母子の薄命を憐む親切心と義利心とに由て請出さんと言ふ是れ若里が直に諾せざる可からざる三理之（以上花心子の物語り）是の如く遊里の常態より考るも若里一己の身上より考るも水澤が二百圓を與ふるを若里が斷りたるは想像す可からざるとなり亦た京阪娼妓の本色を寫したる者に非ざるなり是れ忍は朧氏の人物は千人中一二しか顯れざるなりと言ふ所以なり

忍は謹んで朧氏に申す「若し先生是より人物を作らんと欲せば先つ或る一社會全躰の性質を考へ其全躰の範圍外に漏れざる人物を作られよ妹と背鏡中のお雪は高等の教育を受けたる女子社會全躰の範圍内に置く能はざる者なり若里も亦娼妓社會全躰を組織する一分子に不似合なる者なり」夫れ人間は四種のテンペラメント（Temperament）（これは元と羅甸語にして精神上幷に躰質上の結合にて各自の感情思考動作等を顯すと）の外に出ず今朧氏の造られたる人物は此四種中に求むるも其精神と云躰質と云容易に見出し難き變り物多し其人物が Cholerisch なるも Sanguinisch なるも將た又た Melancolisch 或は Phlegmatisch なるも其何れのテンペラメントに屬するを問はず只だ一人異樣の人物を擔き出しては一社會全躰はとても想像する能はず果して然らばシンチゼーの効能は勿論小說の首眼たる人情をも望む可からざるに至らんか

猶忍は次號に於て首卷夢の塲性質の敬慕と藝能敬慕との一件より男女生長の時期幷に立聞きの事に附て一言の憎れ口を參らせんと欲す

○婦人を一家の交際官とすべし　宇都宮古河いたる

男女交際の道漸く開けんとするの今日に當り須らく先つ一家交際の主權を其家の婦人に任せ婦人をして一家の交際官たらしむべしとの論旨は之れ余輩の最も賛成同意を表する所のものなり然れども此交際なるものは甚だ困難なる事にして人々によりて交際の摸樣を異にせざるを得ざるの塲合少なからずされば此局に當るものは先つ世間万般事物の概略を會得するに非れば能はざるべし然り而して從前我邦婦人社會の有樣を見るに婦人の他家を訪ひ或は婦人の我家を訪ものありて婦人對坐其先つ第一に談するところのものは當時流行の衣裳のしまがら髮の結樣髮の飾等より近處甲乙のうはさ演劇等の談話に過ずして其談するところ眞に微々たるの範圍を出ず故に此如の談話は多くは男子に接するの塲合に於て談柄に供する可

からざるなり如此の婦人例令へ務めて男子に向て交際を試んとするも到底其目的を達するを得ずして遂には唯對坐睨み合をなすに至るは是れ今日迄の實况なれば此等婦人をして決して一家の交際官たらしむる能はざるなり然らば如何して可なるか請ふ試みに左に卑見を陳して諸君の教誨を仰かんと欲す

第一。此局に當るものは能く人情を穿たざるべからず人情を穿つ如何唯小說の力に是れ依る我邦從來行はるゝ所の小說愛讀すべきものなしと雖とも近時に至ては完美なる著述翻譯等世に少なからず聞く泰西婦人は好んで小說を繙くと蓋し何の意あるかを知らずと雖とも亦此等の爲にはあらざるか去れば人情を穿つ小說より良きはなきなり

第二。世事を知らざる可からず世事を知る新聞紙に如くはなし新聞紙は實に社會の耳目文明の利器と稱するものなれば農商工其他百般の事業網羅して殆んと遺こすところなし眞に世事を知らんと欲せば是れを措て將た又何を求めんや故に寸暇を偷むも猶愛讀せざるべからざるなり

第三。一己の見識なかるべからず而して此れを得んと欲せば廣く女學に關する雜誌類を購讀すべし其購讀するの間必ず何れかの點に就て疑問の生することあるべし此疑問の生するは即ち自己智識發達の兆にして終に己が見識となるもの多し且つ此疑問や或る場合に於ては眞に好談柄となることを得べければなり婦人にして以上述るが如きを得ば一家交際の主權や之れに委任して間然するところなきのみならず其交際や必ず圓滑にして主客共に眞正無上の快樂を得て家政の整頓も其宜しきを得るや必せり

◉新報

○結婚の媒妁　前號に申したる求婚の廣告よりは世に結婚の媒妁と云へるものゝ方或は優る所やあらんかの檜物町河岸にあるは數年前より廣く知られたる場所なるが之が爲め好運を得たるも少からずと聞けばその効もとより之あることなり其外家屋土地賣買の世話などをする人々にて傍ら此の仕事を行ふあり其探報のまめやかにして奔走の周密なるは殆んど感ずべき程なり何町に娘何人誰は如何やうの容姿にて年何才初緣不幸にして歸家せりと云へば直ちに帳に付止めて早速に其行衞に注意するなど尤も驚くべきものありと云ふ世に男女の交際廣く行れて相擇ぶの方完く熟するまでは斯る周旋の手段ぞ或は可なる所あるへし

○御發興　皇太后宮は去十三日午前七時青山御所御出門あり横濱にては浪速艦へ御乘船ありて十時解纜遊ばされ西の京へは行啓ありぬ

○歌御會始　去十八日は宮中に於て歌御會始めあり御題は豫て仰出されたる池水浪靜にて御製并びに皇后宮の御歌は

御製

いけみづの上にもしるしよものうみなみ靜なる年の始めは

皇后宮

のどかなるとしやたつらん大にはの御池の岸に寄波もなし

○婦女服制の事　に付皇后宮より左の通り仰出されたるにより去る十七日宮内省より大臣勅任官華族の向きへ夫々傳達ありたるよし

婦女服制のことに付て皇后陛下思食書

女子の服はそのかみ既に衣裳の制ありて孝徳天皇の朝大化の新政發してより持統天皇の朝には朝服の制あり元正天皇の朝には左衽の禁あり聖武天皇の朝に至りては殊に天下の婦女に令じて新様の服を着せしめられき當時固より衣と裳とありしかば裳を重ぬる輩もありて重裳の禁は發しき然ば女子は中世迄も都鄙一般に紅袴を穿きたりしに南北朝よりこのかた干戈の世と成りては衣を得れば便ち著てまた裳なきを顧みること能はず因襲の久しき終に禍亂治まりても裳を用ひず纔かに上衣を長ふして兩脚を蔽はせたりしが近く延寶よりこなた中結びの帶の漸く其幅を廣めて全く今日の服飾をば馴致せり然れども衣ありて裳なきは不具なり固より舊制に依らざるべからずして文運の進める昔日の類にあらねば特り坐禮のみは用ふると能はずして難波の朝の立禮は勢必ず興さゞるを得ざるなりさるに今西洋の女服を見るに衣と裳と具ふること本朝の舊制の如くにして偏へに立禮に適するのみならず身體の動作行歩の運轉にも便利なれは其裁縫に傚はん事當然の理なるべし然れども其改良に就て殊に注意すべきは勉めて我國産を用ひんの一事なりもし能く國産を用ひ得は傍ら製造の改良をも誘ひ美術の進歩をも導き兼て商工にも益を與ふること多かるべくさては此擧却て種々の媒介となりて特り衣服の上に止まらざるべし凡そ物舊を改め新に移るに無益の費を避けんとするは最も至難の業なりと雖も人々互に其分に應じ質素を守りて奢美に流れざるやう能く注意せば遂に其目的を達すべし爰に女服の改良を云にあたりて聊か所思を述べて前途の望を告ぐ

明治二十年一月

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○備中高梁順正女學校　此學校は明治十五年の秋頃同地基督教會員福西繁子及び木村靜子の二名が創立せられたるものなるが元此二女は小學校裁縫科の教師にて藝術も巧妙にあり且つ基督信者なれば貞操の師、德義の教導者として我女我妹を托すべしとて忽ち百名近き生徒となり中には山村の豪農などより遠く留學に來るものありて十數名の塾生をも得たりしかば二女等は神の恩惠を感謝し斯る上は如何にもして神の榮を彰はさずばならぬとよと勇み勵み朝には必ず祈禱を以て其校を開き數十分の間自ら聖書の講義をなし終りには必ず感謝祈禱を以て其校を閉ぢ又土曜日毎には牧師を聘して道德品行の談話を願ひ日曜日毎には有志の女生を誘ふて會堂に伴來り其外講義說教と云ひ祈禱會と云ひ何れも女生徒を多く送り讃美歌を謠はせなどして女生徒の爲且は集會の爲になし其外平常の談話の中に或は交際の間に於て女生徒に道を說き眞理の教を聽せなどするより教會も大に益し女生徒も大に感じ教會外にも大に影響を及ぼしたり然るに翌十六年の夏比よりして惡魔は漸く眼を覺しけん迫害の兆候次第に顯はれ終には人民皆塵を蹴立て悉く基督教に反對するに至りたるより此女學校を耶穌女學校と諢名し其生徒をアーメン生徒と嘲り途に會ば罵り會堂に在ば石砂を投げなどして市中忽ち敵と化し有ぬことまで罵散かすに至りしかば女生徒等の父兄等は皆大に驚きて耶穌にされては大變よと各々女妹等を退校せしむる程こそあれ不信者連中は此時に乘じて別に一女學校を近邊に設立し不信の砲臺を築き立て頻に攻擊を試み弱き此の方の女生徒を蹶し世評を恐るゝ父兄に勸めて多く我生徒を奪ひたりしが莫遮、福西、木村の二姉等は更に惡魔に媚ふるとなく矢張聖書を讀んで校を開き祈禱を以て校を閉ぢ去る者は敢て逐はず罵る者は罵るに任せ寒暖暑冷皆神の司り玉ふ處なれば只管信仰を勵まして神の時を待べきのみと縱令詮方盡しうも亦た望を失はざりし然るに其翌明治十六年の夏此不信者連が破裂して世に有名なる大迫害を惹出し政府の注意を呼起して十分の保護を受るに至り不信者等の膽忽ち縮み惡魔の頤忽ち裂け天道此に復るに及んで元の評判に復せしのみか淩寒の榮花猶ほ一層の香氣を增し入校者頓に加はり益々有名なる校となり近村及び作州等にまで多く分校を建設け始は裁縫のみなりしも今は和漢學の科を設け加ふるに一二の英學女教師を聘し來りて英學科をも此に設け益々盛大に趣く由にて昨年十二月の終には學期卒業證授與式を行ひ郡長も戸長も之に臨みて九十六人の生徒に卒業證

書を與へたりしが臨席するもの三百餘名ありて非常の盛會ありしとの報ありたり因て此校の經歷を想ひ起し福西、木村二姉の忍耐を祝し益々此校の盛大を祈るになん（基督教新聞）

○佛語女學校　佐賀縣士族鍋ヶ江ろく子（三十）ハ寡婦にして富有の聞へある人なるが歐洲婦人の交際多くは佛語を用ゆるを以て本邦今日の如く婦人の交際次第に頻繁に赴くに於ては是非とも完全なる佛語女學校を設けざる可らずとて自身先づ佛語を研究せられ今度佛國の婦人クレスペン、クラップ兩女の贊成を得て麹町區下六番町に佛語女學校を設立せられ去る十五日開校式を執行ありたり同校規則の大畧は左の如し

一本校は敎員役員等總て婦人を以て組織す

一本校は當分の内通學生五十名を限り入校を許す

但し遠路通學の不便有者は時宜により寄宿せしむる事あり

一本校卒業期限は凡そ二ケ年とす

一六ケ月を以て一學期とし毎期の終りに於て學業の成績を驗し證狀を附與すべし

一本校日々の授業課目時間は左の如し

午前十時より十一時三十分迄　午后二時より四時迄

讀方　書取　習學　書取　暗誦　會話　文法

○女子職業學校　神田錦町の同校はいよ／＼生徒も增員し且つ寄宿を乞ふものもありて何分今の所にては手狹に付不日他に移轉して寄宿舍をも設くる筈なりといふ

○長野縣下開智學校　にては此度實業科と云ふを設け同校内に一の工塲を立て工藝科則ち色染科木工科石工科其他輕易の手藝科を設けられ女子は裁縫は勿論洋服仕立其他の流行品の仕立方等を授くる規則もありと云ふ

○松坂女學校　同地の學務課長等は女學の今日に愈ゝ急務なるを感じ米國人ストラー氏の母を招きて敎頭とし更に數名の敎員を雇ひて縣立女學校を設立せんとて各郡の敎育者へ其主意書を配附せり

○露國女子商業學校の設置　ワルシャーワ府女子商業學校は明年一月を以て開校すべき筈あり該校の規則及び學科に關し今「クリエール、ワルシャフスキー」新聞の報ずる所によれば學年を二年と定め學科は簿記法、決算法及び往復文の三科目を敎授し以て商家の簿記掛、通信掛の職務を執るべき老練なる女子を養成するの目的なりと云ふ（昨年十一月一日露國ノウオエ、ウレーミヤ）（二十年一月十二日官報）

○婦人慈善會　昨年開會すべき筈なりし第三回婦人慈善會は

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

本年四月ょ開會すべきとの意見多きよしにて本日午後六時より井上外務大臣の官邸内にて右委員婦人方の協議會を開く筈ありと

○女子交際會　山梨縣下尋常師範學校の女教師長野花女等の發起にて題號の如き會を設け從來の風習を改良し家政の學女子教育の道等を擴張することを圖ると云ふ

○婦人談話會　又宮城縣下白石にても題號の如き會を設け一ヶ月二三回づゝ集會して實業學事を研窮すると云ふ

○階行社の婦人會　本月九日午後一時より大坂にある高島中將の婦人が發起となり各將校及び大坂階行社員諸氏の令閨令孃等を會し今度新築になりたる階行社に於て婦人會を開き茶菓の饗應ありしよし(大坂日報本月十一日)

○産婆への勸諭　産婆業を營むものゝ中には從來安産の御守り又は御呪杯と稱して産家より金錢を貪るもの往〻これあるのみならず時としては貧家を侮り産家より迎ひに來るも遲〻として往かざる事あるは大に産婆の本意を失ふものなれバ右の弊害を矯正し更に規約を立て組合を設け其筋の允許を得る樣にと此程其筋より該營業者へ勸諭有たる由

○絹の飾り及びハンカーチーフ　近頃歐米にて婦人仲間の流行一變して衣服其他の裝飾品には絹地を用ゆる事大に流行し生糸はこれがため昨年の夏期に比すれば一割乃至二割半の高價にて尚ほ上進する勢ありと又ハンカーチーフも我國より米國への輸入高大に増加しさめやすき染色を改良し代價を今すこし低ぐるの工夫をせば日本第三位の輸出品となるべし米國にては大に白色の絹かざりを好むよし

○内外人結婚　昨年中東京府下に於て外國人にして内國人と結婚せる者の數ハ獨逸國婦人二人、米國婦人一人、外國人にして内國人を娶りたる者英國人二人、丁抹國人一人ありと云ふ(東京府)(本月十八日官報による)

○露國の女子　露國ょては電信事務及び銀行書記杯は殆んと全く婦人の爲すべき事業となり居ることなるが同國政府にては鉄道の役員をも同じく婦人を使用せんとて當時其計畫中ありと云ふ(本月十九日時事新報)

○藝娼妓の數　女德を破りて憫むべき地獄に墮落したる藝娼妓は全國にて算せば果して幾干かあらん既に昨年十二月廿八日の調査によれば東京府下のみにて藝妓は千三百廿三人娼妓は四千百四十八人有と云又此頃大坂南區役所勸業委員の取調に係る南地五花街の貸座敷、藝娼妓數幷びに其揚高を聞に去

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十八年十二月ハ貸座敷四百十軒此揚り金高一萬八千二十九圓三十一錢、藝妓三百十八人此揚り金高一萬千四十二圓八錢、娼妓三百四十二人此揚り金高四千八百六十五圓にして昨十九年十二月ハ貸座敷三百七十五軒此揚り金高一萬九千五百七圓二錢、藝妓二百八十二人此揚り金高一萬千九百五十三圓八十八錢、娼妓三百二十四人此揚り金高五千五十二圓七十錢なりと又た昨年十二月の貸座敷數ハ同年十一月に比して六戸を同藝妓ハ一人を娼妓ハ十六人を孰れも增加したるも藝妓花數ハ九萬五千六百三十一本にて一萬五百十本半を娼妓花數ハ五萬五百二十七本にて八千三百七十六本半を却つて減少したりと大坂日報に見ゆ

○景山英子の小傳　巾幗の身を以て敢て國事犯を企て現に大井憲太郎氏以下の人々と共に大坂堀川の獄窓に呻吟し居る景山英子の世に珍らしき女丈夫なりとて此頃朝野新聞に見へたるは女史ハ岡山の人にして其母某氏も亦頗ふる學識あり嘗て小林樟夫氏等の設置に係れる蒸弘學舍と云へる女學校の教師を囑せられて生徒の教育に盡力せしが元來此の女學校ハ小林氏等の薰陶に因りて頗る自由主義を喜ぶの風ありしかバ女史も亦た之が薰陶を受けて深く自由主義を愛し常に壯士輩と交際して時事を談ずるを以て此の上もなき樂みとなせしが偶ま當時の縣令某氏該女學校の自由主義を取るを憂ひ命じて之を閉ざしめ且つ女史の實兄にして小學校の教師たる某に説諭し苟くも身に教師の重任を負ふものにして僅かに一人の實妹すら猶ほ能く之を教育し其氣風を感化する能ハずんハ爭でか能く人を教化することを得べけんや直ちに其職を免ずべしと言ハれけるに女史の實兄ハ頗ぶる小心家なるを以て爲めに鬱憂病を發し殆んど神經を錯亂せんとするに至りしかバ女史ハ之を見るに忍びず枉げて實兄の爲めに己れが平生尊信する所の自由主義を捨る云々の廣告を岡山新聞に掲ぐるに至れり然るに小林氏の妹婿に鹽見逸刀太氏なるものあり女子の心情を知らざれバ唯其の廣告文のみを見て眞に自由主義を捨てたるものなりと思惟し一書を送りて女史が私情の爲めに自由主義を捨てたるを責めたるに英女も固より眞實に自由主義を捨てたる者にあらざれに鹽見氏の書を見て轉た慷慨に堪へず一時ハ鬱屈して熱涙の衣襟を濕すを知らざりしが須臾にして心中自から決する處あり憤然志しを立て母氏に訣別し直ちに大坂に赴きたり（未完）

●指示　本號の特別廣告欄内には東京婦人矯風會の記事あり

特別廣告

●明治十九年十二月六日午後二時日本橋教會々堂に於て婦人矯風會發會式執行す順序左の如し

讃美

祈禱

開會之主意

演説　海老名　田村　兩教師

入會々員記名（會員姓名は下に記す）

役員撰擧

發起人中より投票の上左の十七名を擧て議員とす

矢島かち　三浦とう　大儀見よね　海老名みや
井深せき　佐々城豐壽　井石滿江　島田まさ
青木まさ　小崎ちよ　淵澤のへ　淺井作
本田順　森島いそ　竹田たけ　湯淺はつ
服部ちよ

議員中より投票の上左の役員を擧ぐ

會頭　矢島かち
書記　佐々城豐壽　服部ちよ
會計　海老名みや　三浦とう

讃美

祈禱

午後五時三十分閉會

●明治十九年十二月廿八日午後二時神田今川小路壹丁目壹番地服部ちよ方に於て議員相談會を開く

來會者姓名

矢島かち　青木まさ　加藤久　三浦とう
井石滿江　井深せき　小崎ちよ　森島磯
湯淺はつ　服部ちよ

閉會祈禱　井石滿江

決議之件々左の如し

一本會々員には必ず本會の辭書を附與する事

一本會に關する費用は悉く會計より支拂ふ事

一定期會のあき月は小集會を開く事

一定期會及小集會ハ第二火曜日午後二時より各議員所在の會堂又ハ便宜の場所を撰て輪番に開會する事

一定期會及小集會の司會者ハ開場教會々堂ある時ハ其會員たる議員の内にて之に當り便宜の場所に開く時ハ其家に關係あるもの之を務め且つ當日の事務ハ一切司會者之を擔任する事

一來る明治廿年中集會及開場を定る事左の如し

一月　小集會　赤坂　東京第一キリスト教會々堂
二月　定期會　麴町　キリスト一致麴町教會々堂
三月　年會　牛込　同　牛込教會々堂
四月　小集會　本郷　同　本郷教會々堂
五月　定期會　下谷　同　下谷教會々堂
六月　小集會　兩國　キリスト一致兩國教會假會堂
七月及八月　休會
九月　小集會　築地　美以美教會々堂
十月　小集會　神田今川小路一丁目　服部宅
十一月　定期會　キリスト一致數寄屋橋教會々堂
十二月　小集會　麴町中六番町　櫻井女學校

一次會（一月小集會）に於て年會に關する事件を相談する事

一發起人三浦操子ハ都合により退會す

一福原祐四郎氏特別會員とある

祈禱　井深せき

午後五時閉會

婦人矯風會々員姓名

發起人

大儀見よね　三浦りう　加藤久
本田愼　島田政　海老名みや
（明治十九年十二月廿八日退會）　三浦操
服部ちよ　小崎ちよ　奥村みき　奥村操　手島かね
湯淺はつ　井石滿江　佐々城豐壽　淺井作　青木政
村岡久の　森島いそ　眞木きつ　江藤まさ　井深せき
鈴木やす　切替みあ　清水わか　茨木たへ　服部こま
淵澤のへ　竹内たけ　本田たか　島秀　丸山あを
草野久　中山こう　竹内とく　矢島かち　串田しげ

入會普通會員

小島きよ　北原はる　細川しづ　廣瀨梅　村田
越川高　石川ろく　串田こう　黒川常

入會特別會員

明治十九年十二月六日入會　加藤勝彌
同　巖本善治
同　十二月廿八日入會　福原祐四郎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

男女勸學新誌

毎月一回發兌定價壹冊金十錢十冊前金九十錢郵税一冊壹錢

學問の大切あるは男女を撰はず然れども世間通俗平易にして男女双方の開智に供するの新誌甚だ稀あり是に於て弊社今般男女勸學新誌を發行して男となく女となく讀んで以て解し易く且つ最も有益ある論説記事を集め聊か世人開智の一端に供せんとす即ち其第一號の目次は左の如し●論説○發行の主意○文學會員に告ぐ福澤先生○日本人種の改良論ドクトルベルツ先生○商人の教育水城居士○文明人は多能ある可し幽堂學人●雜報○女子教育會○專修學校○大學卒業生○梵學研究○巴里劇場書景○雜説○民業論扶桑山人○租税の説澳國博士フチンスタイン氏○人口の統計●雜記○三田演説會鶴岡散史○西洋演劇婦人の凱歌●寄書數件●廣告小學普通作文書其他數件●附錄教育法令

發兌本局　東京日本橋元大坂町　勸學新誌社

大賣捌所　大阪本町橋東　開化堂

同　東京元大坂町　法木書屋

第百八十二號

●基督教新聞目次

一月十九日發兌

●論説
（一）酒中の僊
（二）佛教道德一斑
●教報　數十件
●論説
（一）基督教證據論（有神論其九）
（二）東洋の清教徒を論す
●雜錄
（一）不信者の末路如何
（二）エリサベス、フライの略傳（其四）
●雜報及び其社評
●英文教報
●廣告

CONTENTS.

Editorial :— (1) The Drinking Misanthrope (2) Buddhistic morality.
Religious Intelligence.
Miscellaneous :—(1) What becomes of the Infidel Leaders? (2) A Brief Memoir of Elizabeth Fry. (IV)
Leading Articles :—(1) Evidences of Christianity (IX). (2) The Oriental Puritan.
General News.
Translations.
Advertisements.

（毎水曜日發兌○一部金三錢府外郵税一錢）

發行所　東京々橋區瀧山町六番地　警醒社

青年會演説

辨士　イーストレーキ

譯者　高根虎松外一名

來廿五日午後七時於麴町平河町三丁目會堂

麴町青年部會

定價

一冊。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）
十冊。四十八錢	郵税。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は　一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は　二圓八十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

（廿七字詰）

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町闘々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町貝明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードo大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○橫濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本鄉四丁目文壽堂

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô.

發行所

本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●雜報（其四）及び其社評
●英文欵報
●廣告

（毎水曜日發兌○一部金三錢府外郵税一錢）
發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

Editorial :--
thrope (2)
Religious In
Miscellaneou
Infidel Le
of Elizabe
Leading Arti
stianity (I
General New
Translations
Advertiseme

青年會演說

辨士 イーストレーキ
譯者 高根虎松外一名
來廿五日午後七時於麹町平河町三丁目會堂 麹町青年部會

驛遞局認可

雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍
○橫濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本郷四丁目文壽堂

發行所
東京京橋區日吉町八番地
本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

男女勸學新誌

學問の大切なるは男女を撰はず然れども世間通俗平易にして男女双方の開智に供するの新誌甚だ稀なり是に於て弊社今般男女勸學新誌を發行して男となく女となく讀んで以て解し易く且つ最も有益なる論説記事を集め聊か世人開智の一端に供せんとす即ち其第一號の目次は左の如し●論説○發行の主意○文學會員に告ぐ福澤先生○日本人種の改良論ドクトルベルツ先生○商人の教育水城居士○文明人は多能なる可し幽堂學人●雜報○女子教育會○專修學校○大學卒業生○梵學研究○巴里劇場書景○雜説○民業論扶桑山人○租税の説澳國博士フチンスタイン氏○人口の統計●雜記○三田演説會鵜岡散史○西洋演劇婦人の凱歌●寄書數件●廣告小學普通作文書其他數件●附錄教育法令

毎月一回發兌定價壹冊金十錢
十冊前金九十錢郵税一冊壹錢

發兌本局 東京日本橋元大坂町 勸學新誌社
大賣捌所 大阪本町橋東 開化堂
同 東京元大坂町 法木書屋

第百八十二號基督教新聞目次

一月十九日發兌

●基督教新聞目次
●論説
（一）酒中の僊
（二）佛教道德一斑
●教報 數十件
●論説
（一）基督教證據論（有神論其九）
（二）東洋の淸教徒を論す
●雜錄
（一）不信者の末路如何
（二）エリサベス、フライの略傳（其四）
●雜報及び其社評
●英文教報
●廣告

（毎水曜日發兌○一部金三錢府外郵税一錢）
發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

CONTENTS.

Editorial :-- (1) The Drinking Misanthrope (2) Buddhistic morality.
Religious Intelligence.
Miscellaneous :--(1) What becomes of the Infidel Leaders? (2) A Brief Memoir of Elizabeth Fry. (IV)
Leading Articles :—(1) Evidences of Christianity (IX). (2) The Oriental Puritan.
General News.
Translations.
Advertisements.

青年會演說

辨士 イーストレーキ
譯者 高根虎松外一名
來廿五日午後七時於麴町平河町三丁目會堂
麴町青年部會

定價

一册。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するときは右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新𦾔町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードー○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○橫濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本鄉四丁目文壽堂

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō.

發行所
本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY